



学 校 通 信

平成28年度 第 4 号
平成28年 7月 1日
練馬区立開進第三小学校
校 長 土 屋 信 行

自 ら を 信 じ る

校長 土屋 信行

Sさんは、私が開三小で担任をしていた時、同じ学年の他のクラスにいた明朗活発な女の子でした。

5年生のプール納めの頃だったと思います。Sさんの3・4年生時代の担任の先生から、「Sさん、1年生の時から、夏休みの水泳教室、1回も休んでいないらしいよ。」という話がありました。本人に確かめたところ、間違いなく5年生まで毎年皆勤賞をもらっていました。そして、「6年生も皆勤賞を目指します。」と言っていました。

年が明けて6年生の夏休み、水泳教室の期間、Sさんは、雨の日も、気温・水温の低い日も必ず学校にやって来て、実施か否かを自分の目で確かめていました。そしてとうとう6年間皆勤賞を成し遂げたのです。それだけでなく、もちろん泳力も高まり、水泳記録会では50m平泳ぎで上位の成績を残し、リレーの選手としても活躍しました。

これは本人から聴いた話ですが、「1年生の時、夏休みのプールに行くのは当たり前だと思っていて、その結果皆勤賞というものをもらえた。そうしたら、先生からも家族からもたくさん褒められて、とっても嬉しかった。その時、来年も頑張ろうと思った。そして3年生ぐらいからは、家族も協力してくれて、夏休みのいろいろな予定を水泳教室の日程と重ならないように計画してくれた。それと同時に、泳ぐことに自信がもてるようになって、もっと努力しようと思った。」と言っていました。

人間、何かのことで我慢や努力を重ねて得た自信は、他の場面においても、その人の言動や考え方にプラスの影響を与えるのではないのでしょうか。Sさんは、学校内外の他の活動に対しても大変前向きで、学校生活・日常生活を十分に楽しんでいました。

これはスポーツだけに限ったことではありません。例えば、些細なことでもすぐに怒り、気持ちが静まるまでに多くの時間を要していた子がいたとします。その子がカッとんでも、短い時間で落ち着けるようになったり、手や足が出なくなっても口で言えるようになったり、やがては怒らなくなったり、と少しずつでも変わっていくことができれば、これもその子なりの我慢や努力なのです。周りの大人がこれを認め、「前よりもよくなったことに自信をもっている。」と教えてあげることが、何よりもその子の成長に繋がるのだと思います。

スモールステップでいいのです。私たち大人は、小さなことでも子供の我慢や努力をたくさん見つけ、褒め、自信をつけさせていきたいものです。「自信」とは、「自らを信じる」ことなのだと私は確信しています。

